

からきだの道の保全



からきだの道の誕生以前

多摩丘陵の他の地区と同様、唐木田地区も人が狩猟や採集などを行い、定住を始めたのは縄文時代と言われています。その後も生活の糧として森林を活用しながら暮らしてきました。その大切な森林の資源を持続的に得られるよう、下草刈り、伐採、植樹、萌芽更新、落葉かき(堆肥作り)など人手を加えて雑木林を守り続けてきました。

雑木林

昔、雑木林は農家にとって燃料(薪や炭の原木)や田畑に施す堆肥などの供給源として活用され、定期的(15~20年)な萌芽更新と日常の落葉かき下草刈りなどの林床整備を行い維持されてきました。

炭焼き

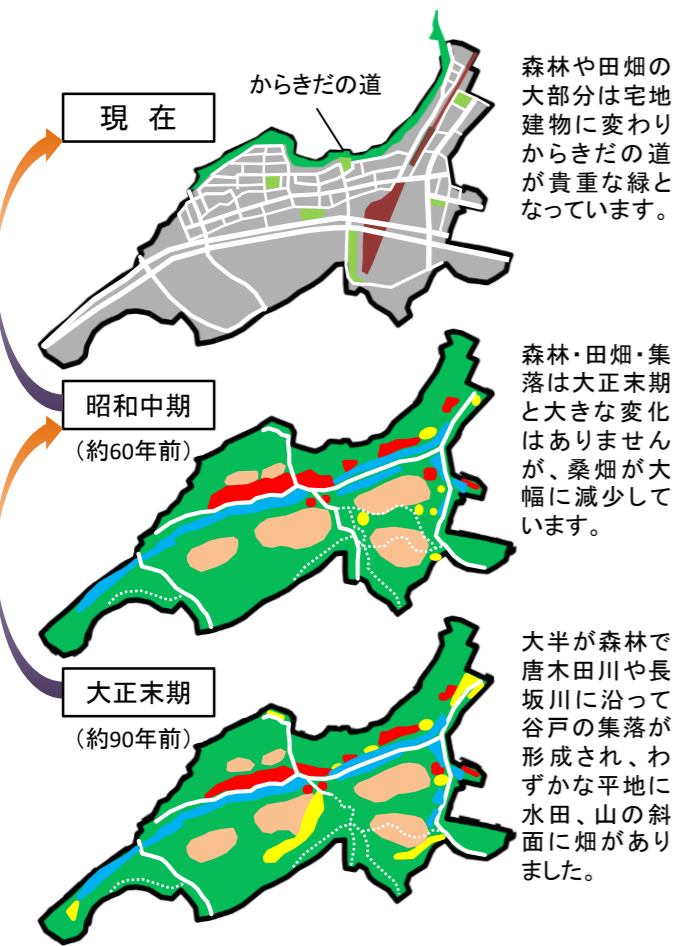
田畑の少ないこの地域は、養蚕とともに農家の副業として炭焼きが行われていました。薪や炭の原木としてクヌギ・コナラを主体とした雑木林の維持・更新に毎年の手入れは欠かせないものでした。

養蚕

大正末期から昭和にかけて養蚕が盛んに行われていた頃、谷戸の段丘面には多くの桑畑がありました。養蚕は多摩丘陵一帯の一大産業でしたが、戦後、ナイロンの出現で生糸の生産減少に伴い衰退しました。

唐木田地区の土地利用区分

- 森林 ■ 水田 ■ 畑 ■ 桑畑 ■ 集落
- 宅地建物 ■ 公園緑地 ■ 鉄道



現在
森林や田畑の大部分は宅地建物に変わりからきだの道が貴重な緑となっています。

昭和中期 (約60年前)
森林・田畑・集落は大正末期と大きな変化はありませんが、桑畑が大幅に減少しています。

大正末期 (約90年前)
大半が森林で唐木田川や長坂川に沿って谷戸の集落が形成され、わずかな平地に水田、山の斜面に畑がありました。

土地利用の区分は、上：平成26年、中：昭和29年
下：大正10年の地形図をもとに作成

一口メモ⑧

昭和中期には落葉で作る堆肥は化学肥料に替わり、燃料もガスや灯油に替わって薪や炭が使われなくなり、薪炭林としての役目を終えました。

一口メモ⑨

戦前まで一大産業となっていた養蚕に欠くことのできないエビラ(竹編み平かご)やカイコを育てる蚕室の棚などの道具類はすべて地元の竹で作られていました。

一口メモ⑩

“川井家のシダレザクラ”(現在は多摩市に寄贈)で有名な川井家は昭和40年頃まで養蚕を行っていた農家で、この辺りでは一番遅くまで蚕を飼っていました。

地域とのふれあい

タケノコ掘り体験会



竹林の保全育成(適正な密度管理)を兼ねた、親子で楽しめる恒例の体験会です。

講習会



活動に役立つ勉強会など適宜開催します。(写真は昆虫博士による「マダニ講習会」)

その他の活動

散策路の点検パトロール 枯木・倒木・落枝の処理、桜や梅など花木への施肥、植生調査、希少植物保護などを行っています。



榎戸公園にて

からきだの道の役割

からきだの道は多摩ニュータウンのほぼ中央に位置する府中カントリークラブ・唐木田・中沢のみどりのつながりとして、自然環境保全や良好な景観形成とともに人々の憩い・遊び・学びの場としての役割を担っています。今後は社会状況や利用ニーズなどの変化に対応しながら、単に「守り育てる」だけでなく、「活かす」といった視点も加え新たな価値を創造し将来にわたって受け継いでいくことが使命です。

環境保全

身近な自然としてのみどりを維持することにより、温暖化防止、大気浄化、防塵などの自然環境の保全と生物多様性の保全にも役立っています。

景観形成

どこから見ても連続する緑の稜線が形成されています。

唐木田地区のビューポイントとして、後背の府中カントリーのみどりと一体となって、季節の移ろいや彩りをもたらす良好な景観を創出しています。

憩い・遊び・学びの場

自然豊かな雑木林の植物や生き物にふれたり、長い変化に富んだ散策路を散歩したり、手軽に心身のリフレッシュや遊び、運動が行え、自然の不思議と仕組みを学べる場となっています。

からきだの道の利用目的

利用されたことのある方のうち、年配の方は「健康増進」、「植物観察」、「気分転換」が大半を占め、子育て世代の方からは「子供との散歩」の回答を頂きました。

(平成26年12月からきだ菖蒲館にて開催された「からきだの道パネル展」来場者アンケートより)

からきだの道の会の活動

雑木林は定期的な間伐、萌芽更新、枝打ちや下草刈り、不要な竹や筍の除去などの林床整備を行わなければ、常緑樹や竹類が優先して成長し陽が入らなくなりうっそうたる人を寄せ付けない樹林地になってしまいます。からきだの道の会は森木会*の一つの活動団体として年次計画を策定し他の活動団体やアダプト制度の団体などと情報交換や調整を図るとともに新しい会員を募りつつ、多摩市と連携して協働の輪を広げ、からきだの道の保全活動を続けていきます。

からきだの道の会は平成23年12月、近隣住民の有志により発足したからきだの道の自然環境保全を推進するグリーンボランティア団体です。

雑木林を守り育てる

下草刈り・林床整備



ササや雑草などを刈り、林床植物の生育を促します。

既存植栽の剪定



樹木の生育と美観を維持するため幹や枝を剪定します。

間伐



密生した木を間引いて、周りの樹木の成長を助けます。

植樹



苗木を植えて林を育てます。(写真はヤマザクラの補植)

会長からの一言

からきだの道のみどりの質的向上と、ふるさとの花の名所づくりを目指して、「会員の安全と健康を第一に無理をせず、楽しく、次世代に環境資産をつなげていく」をモットーに活動していきます。

からきだの道の会 会長 大石 武朗
(造園家、樹木医、元住宅・都市整備公団勤務)



大石会長が自宅で育てている苗木(実生苗)
クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、センリョウ、シロヤマブキ
〈挿し木苗〉
ヒメタイバカズラ

しんぼくかい
* 森木会 (正式名: 多摩グリーンボランティア森木会)
多摩市との協働により、市域の公園緑地とりわけ雑木林などのみどりの保全・育成、ボランティア活動支援、人材育成などを行っています。